

院友会関西支部の結成

本学学員会関西支部は一九九二（平成四）年に創立百周年を迎え、十一月には大阪・兵庫・京都・滋賀・奈良・和歌山の六支部が合同で「中央大学関西支部創立百周年を祝う会」を、大阪商工会議所に四五〇人を集めて盛大に開催した。関西支部は最初に設立された学員会の支部組織で、その創立は一九九二（明治二十五）年とされている。関西支部結成の経緯はどのようなようだったろうか。

九二年一月九日午後五時、大阪中之島の洗心館において東京法学院関西大会が開催された。『法学新報』第一〇号によれば、当日は名古屋・大津・京都・奈良・神戸・岡山・洲本・広島などから百余人の院友および東京法学院関係者が参集し、また東京法学院からは講師総代の山田喜之助と院友総代の恩田熊寿郎が派出されたところである。

大会は、講師総代山田の開会の挨拶に始まり、次いで来賓法学士砂川雄俊・山下雄太郎ほかの演説、大会発起

において、関西に院友会支部を設置することとなった。

この大会には講師・院友総代として高橋健三・花井卓蔵の両人が出席したが、院友伊藤秀雄の演説により、関西懇親会を春秋二回開くこと、院友会支部を大阪市東区淡路町に設置すること、支部委員長を高橋健三、委員を伊藤秀雄・後藤偉四郎・安原権吉・渡辺留三郎・岡田泰蔵の五人とすることが決議されたのである。

本学は、関西支部の創立を初の東京法学院関西大会が開催された一九九二年としているが、この時点で関西支部の結成が実質的に決定していたと理解するのも大いに説得力のあるところであろう。

その後、東京法学院関西大会の開催や関西支部の結成

○東京法学院関西大会

東京法学院に縁故ある人々にして関西地方に在る人達は本月九日午後五時を以て大阪中の島洗心館に於て其大会を催したり當日は名古屋大津京都奈良神戸岡山山洲本廣島等より来り會せしもの無慮百餘名にして特に東京法学院よりは講師総代として山田喜之助院友総代として恩田熊壽郎氏を派出し中々の盛會にてありき席上山田氏は立て開會の主旨を述べ來賓法学士砂川雄俊法学士山下雄太郎の兩氏も又各々一場の演説を試み本會將來の爲めに注意を喚起せり其他數番の席上演説ありしか孰れも懇摯の情言外に溢れざるはなし次で發起者の一人を北岡保定氏は院友藤井乾助氏藤本直次郎氏其他二十餘名の祝詞電報を朗誦して法学院の萬歳を唱へたり右畢て宴を開く獻酬將に覆さるんとす熙然として歌

『法学新報』第10号記事

者の一人北岡保定による祝詞電報の紹介と進み、最後は酒宴を満喫し、「肴核^{しょうかく}尽きて情未だ尽き」ない状況ではあったが、午後十時散会となった。

本学は、八八年十月の英吉利法律学校校友会結成以来、毎年総会および大会を開催して校友・院友の交誼^{こうぎ}を深めてはいたが、開催地が東京であったため、地方に在住する校友・院友はなかなか出席できないのが実情であった。

特に関西地方は関東に次いで校友・院友の多い地域であったため、関西での大会開催は待望されていたのではないかと思われる。そのような関西の院友の思いは、『法学新報』中の「今や此会の開かるゝに会す実に喜ぶべきの至りと云うべし我輩は天長く地久しく此会の永遠無^{ききょう}疆^{ききょう}ならんことを望むものなり」という記載にもよく言い表されている。

そして翌年四月に開催された東京法学院関西院友大会

がきっかけとなって、上毛・名古屋・北海道・長野などでも院友の懇親会が催され、九四年四月までに関西支部のほか上毛・静岡・長野の三支部が結成されている。院友会関西支部の創設は、これまで東京に偏りがちだった院友会の活動を地方へも押し広げるための一翼を担うものであり、各地域における院友会支部結成の先駆けとなる快挙であった。